（第 171 回）神奈川研究会議事メモ

<table>
<tr><td>開催日</td><td>2025 年 11 月 11 日（火）</td><td rowspan="3">出席者
敬称略</td><td rowspan="3">西村二郎・大谷宏・山崎博・持田典秋・神田稔久・宮本公明・飯塚弘</td></tr>
<tr><td>時間</td><td>15 時 00 分～16 時 45 分</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>リモート方式</td></tr>
<tr><td>技術課題</td><td colspan="3">自治会「新宿区」の活動と箱根用水御裁許書類虫干し会</td></tr>
<tr><td>内容</td><td colspan="3">自治会「新宿区」の活動と箱根用水御裁許書類「虫干し会」
[1]我が町（清水町）及び新宿区の概要と自治会活動
(1)清水町地区委員としての区長の役割（町からの依頼事項；各種委員選出など）
・新宿区自治会の活動　①新宿自主防災会と防災訓練、AED 講習会　②自由参加の”スポパラ祭“　③組ごとの日常的なゴミステーションの管理と１回/月の資源ごみ（瓶・鉄屑等）の収集等々　④協力事業：祭典、子供会行事(どんど焼きなど)　⑤ゾーン 30 検討　⑥神社の春秋の例大祭の実施　⑦神社の枝落とし・清掃
(2)新宿区自治会が直面する課題
①役員のなり手不足と結果としての役員の任期の長期化
②自治会の法人化の必要性とそれに伴う課題
③町の下請け：各種工事などの要望、募金等の徴収、各種ちらしの配布・回覧等
[2]近隣の自治会との間で実施している箱根用水御裁許書類虫干し会（年１回夏）の紹介、古文書等の開封・展示、見学、関係者の封印、収納など。
(1)芦ノ湖からの導水の許可を芦ノ湖の水利権を持つ「箱根権現」、さらには、幕府への立願状の提出により、最終的に幕府の許可を得て工事がスタート(1666 年 7 月 21 日)。
(2)芦ノ湖から深良地区までの全長 1280m、平均勾配 1/130 のトンネル(隧道)工事、芦ノ湖側、深良側から掘り進め、わずか 1m の落差で合流できた。途中、灯火を置いた棚の設置、「息抜き穴」も設けている。掘削は地道に鑿で掘り抜くという人力作業で昼夜掘り続けても 4 ヵ月近くの歳月を要した。
(3)芦ノ湖の水を引く村々には井組という用水組合を設置、水配人が水の分配・管理を実施した。用水の上流側の上郷(11 ヶ村)、中流の中郷(9 ヶ村)、下流の下郷(10 ヶ村)の中で用水に不満を持つ下郷だけで、話し合いが実施されることとなり、結果的の古文書も芦ノ湖用水下郷文書となった。
[3]芦ノ湖の水利権
この話は、虫干し会とは直接関係ありませんが、1895 年(明治 28 年)、仙石原村長より静岡県に芦ノ湖の水を利用したいと要望があったが不許可となった。これが原因となり、静岡県側水利組合が深良用水の確保のために設置していた湖尻逆川人口河床を、1896 年に仙石原農民達が破壊しているのが目撃され、静岡県と神奈川県側の争い・裁判となり、最終的に 1898 年大審院判決になり、静岡県の深良村外六ヶ村水利組合が勝訴した。その後、和解案も出されたが、進捗はありませんでした。</td></tr>
<tr><td>発表者からのコメント</td><td colspan="3">(1)自治会活動：私は新宿区の副区長を 3 年務めた後、区長を 2 年務めましたが、副区長の時はコロナが蔓延し行事が殆ど中止になりました。前区長が町会議員に出馬、その応援と区長の引継ぎがあり、余り考える余裕もなく区長になりました。自治会は皆様の協力なくして成り立ちません。一つに地域の防災に力を入れましたが、その足元の問題ですが、消防団員の成り手がなく、町の職員が兼務、緊急時が懸念される。忙しい自分の仕事の合間に、訓練でサイレンを鳴らして消防車を運転したりは大変です。区長の役目で消防団員を頼んだりしますが、自分の孫にはなってもらいたくないのが本音です。
(2)虫干し会：半日の虫干し会自体はあっという間に終わり、“箱根用水御裁許書類”の意味を知ったのは会の終了後です。主食がお米だった時代、同じ下郷の 10 村が同じ思いで生きてきた知ることは、普段疎遠な隣村の人が身近に感じられました。新宿では今でも稲作に深良用水を使っているのは私の友人の１軒のみです。私の家の隣にも支流の“箱根川”が通っています。今は川辺に容易に降りれませんが、昔は川の水でお米を洗ったりしました。今は浄化槽の汚水が流れています。現在でも箱根川を含めた深良用水の堰で水配人の差配により、川の水を止めたり流したりします。</td></tr>
</table>

会員からのコメント	区長の位置付けが町の「地区委員設置要綱」規定されていることに驚きましたが、本来自治会は住民の任意の組織であり、今後はその維持が難しくなるように思いました。一方で、住民には自治会加入が義務付けられてはいないが、自治会に入会しないとゴミが捨てられないという問題が生じるなど、難しい問題が顕在化しつつあると思いました。 民生委員の指名や、各種寄付の下請けなど、本来は自治体や赤十字社などの団体が行うべきことの都合の良い下請け機関化の問題も、自治会非加入会員の増加などにより見直しが必要になるかと思います。神社のお祭りも同じように思います。 多くの行事が行われているようですが、役員への負担は大きなものと思います。私の属する新宿区の５分の１程度の小さな自治会では行事は最小限に留めている一方で、交流促進の観点から行事を望む声もあるのですが、いざ実際に主導しようとする人は少なく悩みの種になっています。 深良用水の芦ノ湖側の取水口には二度ほど行ったことがあります。箱根町からも早川口からも舗装されていない道を歩くためか殆ど人と逢うことがありませんでした。人ではなく親子連れのイノシシと遭遇したこともありました。取水口に立ってみると、外輪山の壁に穴をあけた偉業に驚かされました。 その掘削技術は一部の技術集団が持っていたのではないかと思われます。江戸時代には、利根川に代表される大規模な河川の改修や干拓事業が一部は商人の手によっても行われていますが、この用水隧道でも、江戸の商人の友野与右衛門は資金と同時に技術集団を手配したのではないかと推察しています。 古文書の虫干しをされているようですが、保存と解読は専門家の力を使う必要があると思います。私は、この秋から古文書解読の勉強を始めましたが、この講座を主催しているのは町田市の資料館です。ここでは市民から寄贈された大量の古文書を管理し解読を進めています。 私の古文書解読は、たった２００年前の人が書いた字が読まない情けなさと、一方でAIを以ってしても全ては読むことができないことへの挑戦という楽しさを味わっています。下郷古文書にも触れてみたい思いがあります。　（神田稔久） 清水町は、両親がずっと住み続け、兄弟も暮らしてしていたところなので、馴染みがあります。ただ私は、沼津に6年間住んだだけで、沼津の隣町の清水町は、盆暮れに親の所に行く程度で、済んだこともなくほとんど知りません。 飯塚さんの発表を聞いて、清水町の輪郭が分かるようになりました。 沼津にいたこともあって、深良用水については以前から知っていました。しかし、日本でこれだけの土木工事が、あの時代に行われていたことは驚きです。 下記の報文を読むと深良用水が取り上げられていて、鉱山の技術が応用されていたようです。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsidre1965/55/12/55_12_1167/_pdf 伊豆の土肥金山なども深良用水に比較的近い所にあります。あるいはつながりがあったかも。

会員からのコメント	同じトンネル工事としては、田谷の洞窟が思い起こされます。田谷の洞窟は、横浜市栄区にあり、我が家から遠からぬところにあります。 こちらは鎌倉の寺院の影響を受けた宗教的な案件ですが、立体的に洞窟が掘られていて、3 層構造が複雑に入り組んでいます。 いずれにしても、昔の日本人はずいぶん大した仕事をしていたものだと、感心する次第です。 （持田典秋） 水利権の類は国が持っている。したがって、必要なメンテナンスは国がやるとばかり思っていたので驚いた。事実、一級河川の利用申請は国土交通大臣宛、それ以下は都道府県知事に許可申請書を出すことになっている。井戸を掘る場合は吐出口径があるレベルを越すと知事とか市長宛に許可申請を出すことになっている。このような法律上の制約との関係はどうなっているのだろうか？ 私の郷里・松江市には宍道湖がある。宍道湖の沖合に嫁が島という、宍道湖の景観上、欠かせない小島がある。この島は、何と、個人の所有になっている。根拠は松江藩主が「お前にやる」（と書いた文書があるかどうかは不知）といったからだと聞いている。となると、水利権も同様な扱いになっているのかも知れない。 水利権を守るために、証拠となる古文書の保存に気を使う・・・ということを通じて清水町の有機的な繋がりが保たれる。それ自体、素晴らしいことであるが、生活基盤・様式が変り、水利権の重要性が失われたとき、地域の活性も失われるのだろうか？ （西村二郎） 地元小田原にも多少関係する話題を興味深く聴かせていただきました。長年住んでいながら、芦ノ湖は神奈川県なので、湖水も神奈川県のものと早とちりしておりました。どうりで、湖尻の早川取水口が閉まったままなのも理解しました。 相模湾からは湿った南風がふくこともあり、箱根や丹沢で水不足になるということはこの４０年経験がありません。かたや、箱根外輪山の西側（静岡県裾野市側）は水不足が起こっていたというのも、今回初めて知りました。箱根外輪山の東側（小田原、南足柄）は平野があり、丹沢の水を集めた酒匂川が潤沢に（昔は暴れ川だったので二宮尊徳が堤を作った故事の通り）水を供給できました。また、大量の水を使う写真工業では箱根の伏流水が工場内で自噴していて、ごりやくは今につづいています。 また、外輪山の内側は早川が流れていますが、仙石原から早川漁港までほとんど谷で耕作できる場所がないので、温泉観光が大きな産業になっていて、水利権を欲しいという話がでたことをききません。 また、横浜方面の水不足に対応するため、西丹沢に新たなダムを建造して丹沢湖を作り酒匂川河口に取水堰を設けて送水を行ったりしています。 このように現状ではあまり問題ないようにみえますが、今後、地球温暖化によりアジア大陸、北米大陸などで豪雨と小雨の極端な地域が出ると、水の価値が重要になるともかぎりません。幸い、日本は海にかこまれているので、水不足に悩ませられることはないかもしれませんが、穀物や畜産物などの輸入品は輸出国の水を使っているので、水の国内利用に将来的なビジョンが必要かとおもいます。（宮本公明） ➢ 私のところの自治会の会員数は 640 名で、自治会の専門部は会長、組長、班長などの他に総務部、広報部、文化厚生部、環境部、防犯防災交通部などに分かれています。約 45 年前に宅地造成された地域なので、一斉に高齢化が進み、救急車のサイレンもよく聞きます。世代交代の狭間期で自治会も同じような悩みを抱えています。 ➢ 今回の飯塚さんが発表された資料の中で、自治会内の年齢層別の男女人数比を興味深く眺めました。 70～74 歳は 52:52、75～79 歳は 36：42、80～84 歳は 21:38、85～89 歳は 12：27、90～94 歳は 5:23、95～99 歳は 1:10 となっています。75 歳を超えると男性の人数が減り始め、85 歳を超えると男女の比率が急激に偏ってきます。特に 90～94 歳の 5:23、95～99 歳の 1:10 は特徴的ですが、この傾向はどこの自治会も同様でしょう。 ➢ 私のところの自治会も、年々高齢化が進み単身家庭が増えてきました。私の近所の例では、奥さんを亡くした男性は元気がなくなり急に衰え亡くなったりしますが、男性の単身は食事の問題も大きいように思います。一方、女性は近所の付き合いが多く、食事会など旦那が亡くなると逆に元気になる例も多くみられます。

会員からのコメント	➢ 江戸時代の前期に芦ノ湖の水を水田に利用するために湖尻峠の地下に用水トンネルを掘削する大工事を計画し、4年かけて完成させた建設プロジェクトの遂行と当時の技術をどのように利用したのかも大変に興味があります。これらについては報文が発表されていますが、羅盤、傾斜器などの測量技術や鉱山掘削の技術者の参画とともに、全体のプロジェクトを仕切る優れたプロマネの存在が不可欠でしょう。 ➢ 裾野市のホームページに掲載されている「通水350周年記念誌_深良用水の歴史」 https://www.city.susono.shizuoka.jp/static/fukarayousui350kinenshi/ の第7章の「深良用水の開削」には、江戸前期当時の測量技術や掘削技術がどのような水準であったのかを分析しています。また、持田さんのコメントの中で紹介されている高瀬和昌（神奈川県藤沢土木事務所）著「江戸時代の水路トンネル開削の技術―駿河国駿東郡箱根用水の事例を中心にして一」にも詳細な分析が行われています。 ➢ 深良用水のトンネル（全長1,280m）は、芦ノ湖側と深良側から同時に掘り進められ、湖尻峠の真下で貫通しました。見通しのきかない山中で両側から掘り進めるためには、正確な方向・高低の測量が必要です。 ・江戸前期の測量技術としては、 ① **羅針盤を組み込んだ測量器（小方儀・大方儀など）**：方位角の測定に磁石（羅針盤）の技術が応用されたと推測されます。 ② **水盛（水準器）**：高低差の測量には、正確な水準器がなかった当時、割竹や器に満たした水の水平面を利用する「水盛」と呼ばれる方法が用いられました。 ③ **間縄（けんなわ）・梵天竹（ぼんてんちく）**：距離の測定には、目印をつけた縄（間縄）や棒（梵天竹）などが使われました。 ④ **見通し**：夜間に線香や提灯の光を見通すことで、測量の精度を確保したという記録が玉川上水などの他の江戸時代の難工事の例に見られ、深良用水でも同様の方法が使われた可能性があります。 ⑤ **規矩術（きくじゅつ）**：遠隔地の目標物の位置を間接的に定める、現代のトラバース測量に似た「規矩術」と呼ばれる測量技術も利用されたと考えられます。 ➢ 深良村の名主である大庭源之丞が発起人となり、これらの道具と測量技術を駆使し、ゼネラルマネージャー（元締）で経験豊富な技術者でもある江戸浅草の商人で事業家の友野与右衛門らが幕府や代官を説得し、巨額の工事資金を集め、工夫を凝らし、何よりも多くの農民達の不屈の精神により、この山岳トンネルとしては当時日本最長となる深良用水隧道の難工事を成功させたのでしょう。 ➢ この難工事は『箱根風雲録』として1952年（昭和27年）に映画化され公開されました。監督は反骨精神旺盛かつ骨太な社会派作品を数多く世に出した山本薩夫で、モノクロで撮影されました。映画は友野与右衛門を主人公に夫婦愛と様々な障害を克服し進められた難工事をドキュメント風に力強く描いています。友野与右衛門は最後に叛逆の罪を負わされ、獄中で暗殺されるのがなんとも痛ましい限りです。 なお、この映画は現在カラー化されて、youTubeチャンネルで観られます。 https://www.youtube.com/watch?v=O4TWWW-Auv4 （山﨑　博）

会員からのコメント	

	幹事会 報告	来年度予算の正式インプットが早まり、事務局と幹事会で協議して、収支とも２００万円とする案を作成提出した。
	今後の 予定	12 月　神田氏　リアル方式 1 月　持田氏　リモート方式 2 月　山崎氏　リモート方式 3 月　猪股氏　リモート方式 4 月　見学会 5 月　西村氏　リモート方式 6 月　宮本氏　リアル方式 7 月　大谷氏　リモート方式 8 月　飯塚氏　リモート方式
	次回日程	１．日時　2025 年 12 月 9 日（木）14 時 30 分～16 時 30 分 ２．課題　神田氏提供 ３．場所　かながわ県民センター ４．忘年会　京華楼クレーン店
	次々回 日程	１．日時　2026 年 1 月 13 日（火）15 時～17 時 ２．課題　持田氏提供 ３．方式　リモート方式